

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																
国際情報工科大自動車大学校		平成13年12月11日	和田 秀勝	〒963-8811 福島県郡山市方八町2-4-15 (電話) 024-956-0030																
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人 国際総合学園		平成7年3月24日	池田 祥護	〒951-8065 新潟県新潟市中央区古町通二番町541番地 (電話) 025-210-8565																
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士															
工業	工業専門課程	高度情報工学科			平成29年度文部科学省認定															
学科の目的	ウェアラブルデバイスやモーションセンサーの発達により、先進的な技術が注目されています。高度で実践的な授業展開を行いその先進的技術に対応でき、世界に通用する技術者の育成を行う。																			
認定年月日	令和2年3月25日																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技													
	4年 昼間	3456時間	1746時間	615時間	1095時間	0時間	0時間													
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数														
40人		45人	1人	1人	4人	5人														
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 年2回の試験を実施。試験の点数、実習成果、授業課題から点数配分を行い点数に応じたA～Dの4段階評価 A評価:100～80点、B評価:79～70点 C評価:69～60点、D評価:59～0点														
長期休み	■新緑休業:4月29日～5月7日 ■夏季休業:7月25日～8月31日 ■冬季休業:12月25日～1月7日 ■春季休業:2月11日～4月10日			卒業・進級条件		卒業・進級するためには以下の3つの要件をすべて満たしている必要がある ■総出席率90%以上 ■科目評価すべての科目C以上 ■進級基準基準検定の取得・課題・作品の提出														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ・定期面談の実施 ・必要に応じた三者面談の実施 ・出席管理			課外活動		■課外活動の種類 ・ボランティア活動(各種ボランティア活動実施) ・学園祭実行委員会(学園祭の告知、PR) ・卒業パーティー実行委員会(卒業パーティーの企画運営) ■サークル活動: 有														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 株式会社アドヴァンスト・インフォーメーション・デザイン、プリマックス株式会社 ■就職指導内容 就職研修開催、模擬面接試験実施、個別履歴書添削、個別面接指導など			主な学修成果(資格・検定等) ※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)														
	■卒業生数: 3人 ■就職希望者数: 3人 ■就職者数: 3人 ■就職率: 100% ■卒業者に占める就職者の割合: 100% ■その他: (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>応用情報技術者</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート	③	3人	3人	基本情報技術者	③	3人	2人	応用情報技術者
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																	
ITパスポート	③	3人	3人																	
基本情報技術者	③	3人	2人																	
応用情報技術者	③	3人	1人																	
中途退学の現状	■中途退学者: 1名 令和2年4月1日時点において、在学者36名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者35名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更			■中退率: 2.8%																
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有(無) 【各種特待生制度】受験する際に書類審査・面接試験結果、ランク判定により5万円～25万円の授業料免除 【進級特待生制度】2年生、3年生および4年生に進級する際、一定の条件を満たした者に対して5万円または10万円の授業料免除 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象(非給付対象) ※給付対象の場合、前年度の給付実績数について任意記載																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無) ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																			

当該学科の  
ホームページ  
URL

<http://wiz.ac.jp/>

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界団体、学術有識者や業界企業などで編成する「教育編成委員会」を設置。業界の専門性に関する動向や産業振興の方向性など、今後必要となる知識、技術、技能など十分に把握、分析を行い実践的職業教育に必要な授業科目の開設や授業内容の改善と提案を行い、企業の要請をいかしつつ教育の質の確保と向上に努める。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は現状の教育課程内容を認識し、関係する業界動向を業界動向、最新の知識、機材、手法等と併せて改善が必要とされる課題を抽出し、各学科で新教育課程案を作成する。新教育課程案を学校管理者が総合的に検討、学校長の許可を経て決定する。新教育課程は次年度以降の教育課程に反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年6月30日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 秀明	公益財団法人 郡山地域テクノポリス推進機構	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	①
原田 賢一	有限会社 ワイズマン	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
浅井 渉	株式会社 dott	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
國井 稔	国際ゲーム開発協会東北(IGDA東北)	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
和田 秀勝	国際情報工科自動車大学校 学校長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
阿部 一則	国際情報工科自動車大学校 教務部長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
鈴木 友二	国際情報工科自動車大学校 教務部長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
市川 英将	国際情報工科自動車大学校 情報分野学科長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
佐藤 夢路	国際情報工科自動車大学校 専任教員	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
安齋 貴美子	国際情報工科自動車大学校 専任教員	令和2年9月1日～ 令和4年3月31日(1年7ヶ月)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年10月26日 14:00～14:30

第2回 令和3年2月24日 16:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

・委員会で最先端技術としてIoTやビッグデータを扱う技術が必要になる。クラウドと無線通信の試験を入れると就職に有利になれる。合わせて外部講師の必要性についてお話があり検討する必要があるとの意見を頂いたため、連携企業である株式会社dottより講師を派遣、クラウドについての特別授業(科目:クラウド演習)を実施。

・委員会でアジャイル(スクラムなど)開発手法を学ぶことが必要である。特別講義等を利用してでも実施すべきとの意見を頂き、外部講師によるアジャイル開発セミナーを検討中。ただし、学内開発授業については従来のウォーターフォールモデルによる開発を指導する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

卒業後の即戦力を目指すため、最新OSに関する実習内容を強化し、受入れ企業に対しては、マンツーマンの指導者対応を要請するとともに、複数部署での実務研修を実施する方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生個々の課題、目標を明確にし、企業側担当者による到達度、評価を、文書とともに点数化し、スキルアップを図る。また、開発授業に顧客目線・企業目線からの視点を加える事により、より実践に近い授業展開を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
LAMP演習	仮想店舗を設定し、顧客向けWebサイト構築を行う。	有限会社 山ノ井商事

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

基本は企業現場からの教員採用を前提としているが、学校内部で教員年数を重ねていくにつれて、ややもすれば過去の知識・経験のまま陳腐化した教育を施す危険性もある。このため、就業規則第57条等による教育・研修体制、特に外部研修を充実させ、日々の研鑽とスキルアップを図る方針とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「de:code2020」(連携企業等:日本マイクロソフト株式会社)  
 期間:令和2年6月17日(水)~6月30日(火) 対象:情報分野教員  
 内容:Microsoftの技術動向と各種最先端技術についての研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「コロナ禍における就活対策支援のポイント」(連携企業等:株式会社ビーアライブ)  
 期間:令和2年10月9日(金) 対象:情報分野職員  
 内容:新型コロナウイルス禍で変わる就職事情と学生指導

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:『ICTフェアin東北2021~デジタル変革で東北の未来を拓く~』  
 (主催団体:総務省東北総合通信局、東北情報通信懇談会、情報通信月間推進協議会、東北電気通信協力会、東北地方非常通信協議会、電波利用推進東北フォーラム、東北5Gデジタル変革推進フォーラム)  
 期間:2021年6月22日(火)~2021年8月31日(火)  
 対象:情報分野職員  
 内容:地域課題、地方創生等にかかわる情報通信技術や動向についての研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「スクールカウンセラーから学ぶ~最近の若者の傾向と教員としての対応方法~」(講師:久保木優紀)  
 期間:令和3年8月5日(木) 対象:情報分野職員  
 内容:最近の若者の傾向とカウンセリングを受診している学生の指導・対応方法

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価については、文部科学省策定の「専修学校における学校評価ガイドライン」をベースに、任意団体である全国専門学校経営研究会(加盟校:26法人113校)により協議検討を重ねた「自己点検・評価基準」を主に、点検基準表を策定し、学校が委員会等の点検・評価を基に作成し、学校長が再点検の上、学校運営に反映させる方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 学校運営	教育の内容・管理運営・改革改善
(3) 教育活動	教育の内容
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	管理運営(法人)
(9) 法令等の遵守	管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

令和2年度委員会、自己点検評価に基づき不備な点の改善、方向性の決定、優良な点の継続、及び次年度以降の解決・取組課題について協議実施。評価委員からの意見として「教育の実施体制」に関して環境・エコ活動についての取り組みは重要である。学生と一緒に授業として取り組むことはどうかとの意見があり、今後の取り組みについて検討していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年6月30日現在

名前	所属	任期	種別
小野 隆	一般社団法人 福島県自動車整備振興会	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	公共団体委員
嶋影 健一	公益社団法人 日本建築家協会 東北支部	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	業界団体委員
中林 寿文	特定非営利活動法人 国際ゲーム開発者協会	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	業界団体委員
嶋原 健太郎	光栄電気通信工業株式会社	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	企業等委員
鹿又 将征	株式会社アルサ	令和4年1月20日～ 令和5年3月31日 (1年2ヶ月)	企業等委員
佐藤 理夫	福島大学 共生システム理工学類	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	教授

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <http://www.wiz.ac.jp/>

公表時期: 令和3年12月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当校の教育内容、内部活動、外部活動、資格・コンペ・表彰、また学校経営に係る事項等の実績については、公益法人として、関連団体・関連業界・学生就職先のほか、広く万人に発信する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念、教育目的、教育目標
(2) 各学科等の教育	教育の内容・管理運営・改革改善
(3) 教職員	教育の内容
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育目標の達成度と教育効果
(5) 様々な教育活動・教育環境	学生支援
(6) 学生の生活支援	教育の実施体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生支援
(8) 学校の財務	管理運営(法人)
(9) 学校評価	管理運営
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <http://www.wiz.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コンピュータ概論	IT技術者として必要なIT技術の基本知識を身に付ける。 情報処理技術者試験合格の為の知識の習得。	1前	96	-	○			○	○			
○			アルゴリズム	IT技術者として必要なアルゴリズムの基本知識を身に付ける。 情報処理技術者試験合格の為の知識の習得。	1通	123	-	○			○		○		
○			システム開発と情報化	システム開発を行うための基本的手順、開発手法、管理手法を学習する。 情報処理技術者試験合格の為の知識の習得。	1前	102	-	○			○	○			
○			Java	IT技術者（プログラマ）として必要なJavaプログラミング技術を身に付ける。 情報処理技術者試験合格の為の言語知識の習得。	1通	174	-	○			○	○			
○			Office実習I	表計算ソフト「Excel」の基本的な利用法を学ぶ。	1前	51	-	○			○		○		
○			Office実習II	文書作成ソフト「Word」の基本的な利用法を学ぶ。	1後	36		○			○	○			
○			データベース実習I	データベースソフト「Access」の基本的な利用法とデータベースの基礎を学ぶ。	1後	36	-	○			○		○		
○			検定対策	検定試験に必要な知識の習得を行う。	1後	36	-	○			○	○			
○			コミュニケーション技法	社会人として必要なプレゼンテーション知識を身に付ける。 模擬プレゼンテーションを通して発表のノウハウを身に付ける。	1後	36	-	○			○	○			
合計					9科目	690単位時間 ( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報処理技術者試験特別講義	基本情報技術者試験の合格に向けた基礎知識の習得を行う。	1通	204	-	○			○		○		
○			システム開発設計Ⅰ	C#言語で学んだ知識を活かし、ストアアプリ開発を学ぶ。 XAMLによる画面制作・非同期API連携等の技術を学ぶ。	2前	153	-				○	○		○	
○			C#	VisualStudioを使用してプログラミング言語を学ぶ	2前	102	-		○		○			○	
○			Web制作基礎	HTML/CSSの基礎を学びWebページを作成する。	2前	102	-	○			○				○
○			LAMP演習	ネットワークの基礎学習を行う。 コマンドプロンプトにてコマンド操作を学習する。	2後	72	-		○		○				○ ○
○			データベース実習Ⅱ	リレーショナルデータベースの必要性と考え方について学ぶ。 SQLの習得を行う。	2前	51	-		○		○			○	
○			システム開発設計Ⅱ	アーバンデータチャレンジ出展の作品制作を通じてチーム制作について学ぶ	2後	144	-				○	○		○	
○			クラウド演習	Azureのクラウドサービスを通じて最新技術のクラウド機能を学ぶ	2後	36	-		○						
○			情報処理技術者試験特別講義	情報処理国家試験取得に向けた知識習得を行う。	2通	204	-	○			○			○	
合計					8科目	1068単位時間 ( 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			LAMP制作	グループワークを行い企業向けのWEBサイトの構築を行う。	3前	204	-			○	○			○	
○			システム設計開発Ⅲ	アーバンデータチャレンジ出展の作品制作を通じてマネジメントスキルについて学ぶ	3後	108	-			○	○		○		
○			システム設計基礎	アプリの企画とプロトタイピングの手法を学ぶ	3前	51	-			○	○			○	
○			就職実務	就職に向けたスキルやビジネスマナーの習得を行う。	3後	36	-		○		○		○		
○			Unix/Linux演習	Unix/Linuxを利用したサーバー構築/操作に関する知識の習得を行う。	3後	36	-		○		○			○	
○			Python	Python言語の記述方式を理解しプログラムを組む	3前	102	-	○			○		○		
○			Python応用	機会学習の基礎を理解しPython言語を用いた機械学習を行う	3後	72	-		○		○		○		
○			AI数学	AIプログラムに関する数学知識を習得	3後	36	-	○			○			○	
○			情報処理技術者試験特別講義	情報処理国家試験取得に向けた知識習得を行う。	3通	204	-	○			○		○		
合計					8科目		849単位時間 ( 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 高度情報工学科) 令和3年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			技術研究実習	上流工程からアプリ開発を行い、SEとしての技術力を高める	4前	204	-			○	○			○	
○			IoT演習	IoT技術の基礎知識を学習しIoTを使ったシステムやサービスを考える	4後	36	-		○		○			○	
○			PowerBI	PowerBIの使い方を覚えデータの可視化スキルの学ぶ	4後	72	-		○		○			○	
○			AIプログラミング	AI技術の基礎からプログラミングして実際に動かす所まで学習する。	4前	51	-			○	○			○	
○			卒業研究	在学中に学習した内容を踏まえて新たな技術を加えた成果物を作成する。	4後	180	-			○	○			○	
○			就職実務	ビジネスマナーやビジネススキルの習得を行う。	4前	51	-		○		○			○	
○			要件定義演習	要件定義の基礎を学び身につける	4前	51	-		○		○			○	
○			情報処理技術者試験特別講義	情報処理国家試験の取得に向けた知識の習得を行う。	4通	204	-	○			○			○	
合計					9科目		849単位時間 ( 単位)								
							合計時間数			3456単位時間					
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			17週				

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。